「“顔の見える関係”から“手をつなぎ合える関係”」をめざして

ことう地域チームケア研究会 たより

第70号

令和6年11月30日発行

つながろう　話そう
ハイブリッド de 研究会

第70回 ことう地域チームケア研究会を開催しました

◆開催日時：令和6年11月14日（木） 18:30～20:30

◆参加者：91名（医療関係40名、福祉関係23名、行政・包括・その他28名）

「事例を通して考える ACP③」
～看取りのプロセスにおけるチームケア～

担当世話人団体；訪問看護ステーション連絡協議会・彦根愛知犬上介護支援専門員連絡協議会

話題提供① 「ACP 支援における介護支援専門員の役割」

ケアプランセンターどりーむ　辻　広美　氏

「初めまして」の時から、意向の聞き取りが始まる

ACPに
つながっていく

ACP を意識せずとも、あるいはあらたまった形でなくても、考えや意向を確認する中には ACP の視点も含まれています。

☆コミュニケーションを通じひと理解する

・本人の生活歴、成育歴、家族等の情報を基に価値観を理解
・ふとした会話や雑談の中から、死生観、人生観、思いを推し量る
・本人の言葉や表情から意思をくみ取る
・話の中から本人にとって大切にしている部分を理解
・家の中の様子、調度品や家具から元気だった頃の生活状況を推し量る

「ひと理解」…『自分とは異なる価値観や背景を持つ人の立場に立って考えて、相手の感情や意図を理解しようとする姿勢』

言葉のピースを拾い、つなげていく

☆意向や考えを聞き、多職種で共有する

ケアチームの良好な関係を構築、本人・家族間、医療との橋渡し

話題提供② 「遺族を交えたビリーブメントカンファレンスとは」

豊郷病院（透析看護認定看護師）　鉾立　優作 氏

ビリーブメントカンファレンスの目的や意義について事例を含めてご紹介いただきました。

◆死別後のカンファレンス；「デス（死）カンファレンス」⇒「ビリーブメント（死別）カンファレンス」へ

《遺族を交えたビリーブメントカンファレンスの目的》

【目的①】亡くなられた患者の治療・ケア、関わりを振り返り、質の高い治療・ケアの提供に繋げる。

・治療やケアに関わった多職種の方針・考えの違いを共有し、チーム医療の質を高める。
・患者・家族の理解を深める。
・ACP、SDMなど意思決定支援の振り返り。

【目的②】ビリーブメントケア（グリーフケア）
医療者及び遺族の双方のケア

・語り合うことで心残りや無力感、悲しみ、心の傷などを共有し悲嘆からの回復をサポートすることを目的とする。

《遺族を交えたビリーブメントカンファレンスの意義》

◆私たちがどれだけ患者・家族により沿い、希望された治療・ケアが提供できたかは振り返りなしでは評価できない。

◆遺族と共に振り返ることができれば、医療者と遺族、立場の違う双方の思いを汲みとった振り返りと評価を行うことができ、今後に活かすことができる。

より良い治療・ケアの提供、意思決定支援へ

話題提供③　「ACP を実現させるために　看取りの見える化シートを活用」

訪問看護ステーション連絡協議会　吉田　幸恵 氏 / 伊部　恵美子 氏

看取りケアの不安

◆看取りの時期なのか？見極められない
◆終末期の身体の変化がわからない
◆急変時にどうすればいいかわからない
◆何をすればいいのか　何ができるのかわからない

看取りケアの悩み

◆自施設内・多職種間の情報共有の不足
◆職種間の思いや考え方の違い

「看取りの見える化シート」を活用

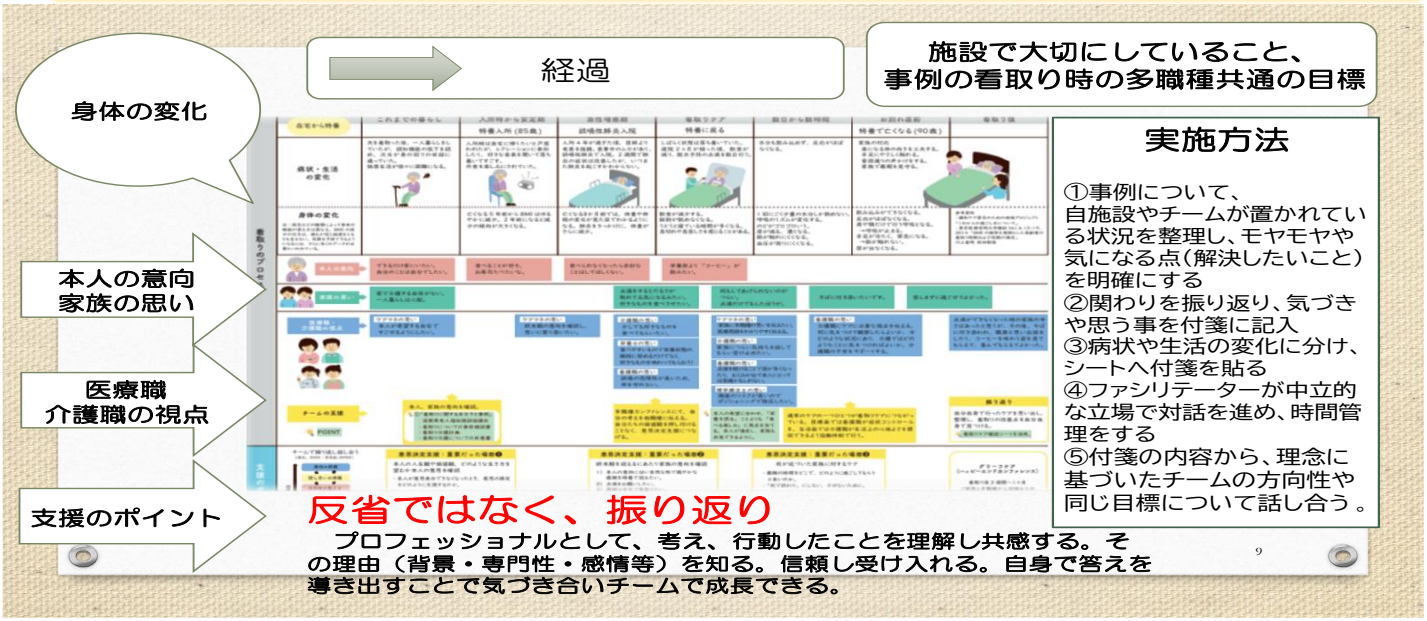
「滋賀県　医療と介護をつなぐ看取り介護推進事業」の一環として作成されたものです。「施設」・「グループホーム」・「在宅」の3つのバージョンがあります。

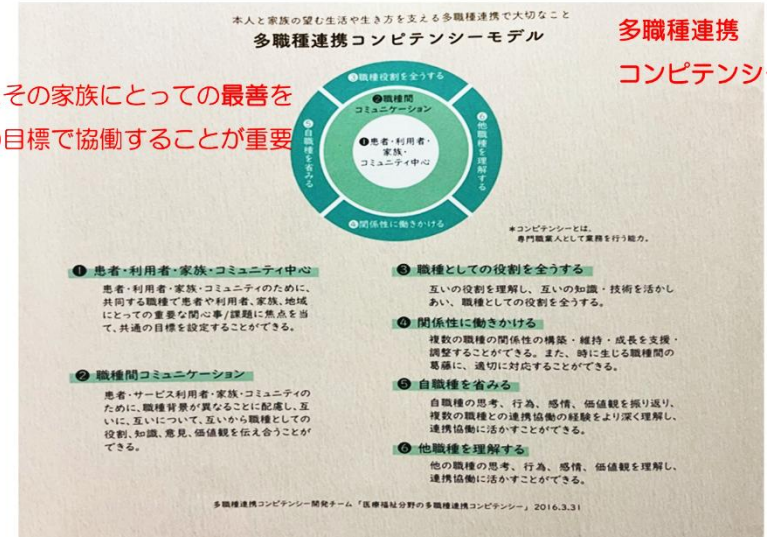
☆「本人の思い」を中心に、家族や多職種の思いを可視化でき、情報共有できるツール
☆自分の考えを言語化し伝えることで、ケアの方向性を考えることができ、
チームでの看取りを実現させる

活用してみて

『各職種の関わりや思い、 本人の願いに気づけた』
『これでよかったんだ、と思えた』
『もやもやが晴れた』

☆看取り後の振り返りだけでなく、支援中の事例にも、どう支援したらいいのか困ったときに活用できます！





多職種連携
コンピテンシーモデル

本人とその家族にとっての最善を
共通の目標で協働することが重要

多職種連携で大切にしたいこと

連携の中心に「本人と家族の思い」を置いた　共通の目標を

「大切にしていること」「価値観や思い」「暮らし」を　理解し、生き方を支える

職種により思考、知識、技術、役割、価値観が違う

互いに理解し、伝え合い、そして職種としての役割を全うする

看取りの見える化シートより

グループワーク/全体会

グループワークでは会場とオンラインで 10 のグループに分かれて意見交換を行いました。話題提供の感想や、それぞれの置かれた立場で、「その人の望む暮らしを支えるため」の支援の中で感じていること、悩んだこと、気をつけていることなどたくさんの意見が出されました。（一部掲載）

①看取り支援における意向確認の場面で

《工夫していること》

◆「その時になってから考える」といわれる本人や家族に『サイ五郎さんち』の絵本を見てもらって、考えてもらう機会を持ってもらった。
◆日常の生活･会話の中で価値観かなと思う言葉等を記録に残している。
◆本人に先に意向を聞くようにしている。家族の前では話しにくいこともあるので話す環境を工夫している。そのあとで家族に聞くようにしている。繰り返し聞く機会をつくっている。
◆関わりの早期から家族を交えて、本人の意向の確認を行うようにしている。

《悩んだこと・困ったこと》

◆本人の思いと家族の思いが違う場合
『患者本人の意向と家族の意向のギャップがあり、合意形成が得られないまま亡くなってしまった。』
『在宅看取りを希望されていても救急搬送となってしまうことがある。本人が望まれない医療処置ではなかったかと思う。』
◆本人と意思疎通が困難な時（意向が確認できない場合）
『食事が入らなくなっても介護者は何とか食べてもらおうとする。しかし、本人は食べたいと思っているのだろうか』
◆本人がどうしたいか決められない場合
『退院後どこで過ごすか、なかなか決められずにいる方にどのように支援していくと良いか。』

②看取り支援における多職種連携で

《悩んだこと・困ったこと》

◆（薬局）患者が病状についてどのような説明を受けているか、理解しているかわからない中で、患者への薬の説明が難しいことがある（不用意に話せない）。
◆看取り期に関わることが少ない。かかわっていた時期に食事に課題を感じていたが他職種に伝えられなかった。伝えておけたらよかった。
◆施設内では比較的連携は取りやすいが、職種によって視点が違い、意見が分かれて困ることもある。本人の思いはどうなのか、折り合いをつけていくのが難しい。
◆ケースを振り返る時間の確保が難しい。

《工夫していること・取り組んでいること・できるといいなということ》

◆救急隊員との連携：訪問看護では、救急搬送時に使用する「連携シート」を作成、情報が共有できるようにしている。
◆医療的な対応が多くなるので、病棟看護師と訪問看護師が直接、情報共有し連携を図っている。
◆受診時の情報があると状態把握しやすく、薬の説明もしやすくなる。（薬剤師）。
◆病院から「看取りでの受け入れを」と伝えてもらえると、その備えができ、対応がしやすい（訪問看護）。

彦根市立病院
吉川浩平氏

『ご自身の ACP 実践されていますか？』

誰もが当事者。
まず自分に対して ACP を実践してみましょう
病気になって、人生の先が見えてきて、ACP を始める、というものではないと思います。
私たち自身がACPを実践してはじめて、患者さんに伝えていけるのでないかと思います。

彦根医師会
松木明氏

『その人らしく人生を生ききるために』

◆私は、自分の患者さんには、「いつ頃動けなくなるか」、「いつ頃食べられなくなるか、飲めなくなるか」、「いつ頃意識が下がっていくか」、「会話ができなくなるか」を的確に知らせておきたいと思っています。
　そして、それまでに、行きたいところには遊びに行っておいてほしいし、食べられなくなるまでに食べたいものを食べてほしい。会いたい人には意識があるうちに会っておいてほしいと思っています。私自身はもう考えていて、書き留めています。
◆患者さんは初めて死ぬのです。医者は何度も死を見ているので、先の状態はある程度わかります。そのことをちゃんと伝えてあげると、急変時も焦って救急車を呼ぶこともなくなると思います。知らなければ周りは慌てて救急車を呼んでしまいます。そうならないように前もって話しておいてあげる、そして心の準備をしてもらう。それが必要だと思っています。

（3回シリーズ ACP をおえて･･･）◆職種によって関わり方や感じていることに違いがあることに気づいたり、同じような悩みを抱えていることがわかったり…、聞き合って、伝え合っていくことで、人となりがわかるつながりが増え、これからのチーム作り、チームケア、ACP の実践に活かされていくと良いなと思います(⌒▽⌒)。◆そして…まずは自分自身の ACP。これまでどのような選択・決定をしてきたのか、なぜそうしたのか、そして、これからどうするか、考えてみたいと思います。◆今年度、研究会では 3 回シリーズで「ACP」をテーマにしてきましたが、今後も引き続き、我がごととして、支援者として、皆さんと考えていきたいと思っています **A**(⌒▽⌒))。

《参加者の声》

こんなこと思いました

＜第70回アンケートより＞

話題提供①「ACP 支援における介護支援専門員の役割について」感想や印象に残ったこと

ケアマネジャーが利用者さんに関わる時から、今、将来を見据えて関わってくださっていることが伝わりました。
「ひと理解」が印象的でした。早期から関わりを作っておられるところを見習いたいと思いました。
ひと理解するという内容が印象に残りました。
できるだけ早い段階で最後をどう迎えたいかという意向を聞き出しておくこと。
ケアマネジャーは、初回訪問からいつものモニタリング訪問の時のコミュニケーションで意向を確認しているなあと改めて思った。
アセスメントを繰り返し行う事で大切にされている事や人生観を他職種にも共有する役割を担っている。医療と介護で立ち位置が違うが目指すところは一緒であると学びました。
日頃の訪問で本人の気持ち（最期はどうしたいか）を聞く事が大事だと改めて感じた。
「初めまして」の時から、意向の聞き取りが始まるということで、私達も評価を進める上で同考え方を持っているので、その大事さには共感が持てました。
介護支援専門員として、意思決定支援の役割があること、それを多職種で共有することの大切さを学べた。
現場の状況を知ることが良かった。多職種の思いの違いが生じることを考えさせられた。
ケアマネジャーとして人の人生最後のケアプランを立てることはなかなか難しいと感じました

話題提供②「ビリーブメントカンファレンスについて」感想や印象に残ったこと

利用者様のご遺族と振り返りをすることで、医療者の視点で考えていたことが、ご家族の率直なご意見を聞くことで、より、リアルに思いが伝わり、参加者のみんなの良い機会になることがよく分かりました。
デスカンファレンスは経験がありますが、遺族に参加いただく事でより自分達の看護が良かったのか振り返る機会となると思いました。
素晴らしい取り組みだとびっくりしました。特に「みんなで振り返る」のが良いと思いました。
このような取り組みをされていることを初めてわかり勉強になりました。
医療職だけでカンファレンスをするとどうしても家族の思いは推測になってしまうが、家族も参加してもらうことで家族の思いも振り返れて更に今後に繋がると感じた。
やはり、振り返りをする事で評価できる。
本人の死去後、私のケアマネとしての役目は終わり、と振り返ることなく過ごしています。このお話を聞いてケアを振り返ることの大切さを思いました。
ビリーブマントカンファレンスについて知らない用語でしたが、必要性や振り返りの意義を学ぶ事が出来て大変良かったです。
今までも利用者が亡くなられた後の事も気になっていた。支援者だけでなく家族とも話ができて、振り返りができることは良いと思う。
事例を出して説明していただけたことにより、より ACP を深く捉えることができた。
亡くなった後に医療者と遺族が振り返ることができる　もっと広がっていけばと思った。
家族の思いが知れてよかった。
遺族とともにカンファレンスをされていることがすごいと思いました。関係の方々の志や謙虚な姿勢に頭が下がります。
延命治療により家族の気持ちの整理がついた事例が聞けたことが良かった。
ビリーブメントカンファレンスという言葉を初めて聞きました。デスカンファレンスでは確かに印象が悪いと思います、同感です。

話題提供③「見える化シートの活用事例より」について、感想や印象に残ったこと

具体的な利用の方法や、ケアする自分たちがどのように生きること、最期の迎え方を考えていくことが大切なのか、伝わりました。
多職種や家族との意識のズレがわかりやすく振り返りに活用できると思います。
「家族と意志を合わせていく」という姿勢が素晴らしいと思います。
他職種で病状理解が異なることがあり、病状理解は統一しておくことが必要だと感じました。訪問看護師として伝え方は今後も気を付けていきたいです。
医療と他職種の意識のズレが生じることがある。
看取りの支援中でも看取り後でも使用できるシートで、今後使用できれば振り返りも関わった職種の皆でできそうと思った。
情報提供をして共有していると思いがちであるが…見える化することで互いの思いのズレを近づける事が出来るのでは無いか…と思いました。
ワークシートは、実際に使用してみないと分からない。
見やすいシートを試験的に活用してみたいと思いました。
看取りの見える化シートを知らなかった。活用できれば良いと思った。
看取りの見える化シートは面白いですね。「見える化」が良いですね。

グループワークに参加して感じたことや意見など

グループワークに参加した方々の職種としては今回の研修内容に直接的に関わりのない方が多かったのですが、それぞれの職種での関わりを知ることができ、いい討論になりました。
多職種の率直な思いや意見を聞く、良い機会でした。
意見が活発に出ていた　たくさんの意見を聴けて嬉しかった。
他職種の意見や悩みを共有できました。
色んな立場の話を聞くことができ視野が広がりました。
色々な職種の方から色々な意見や感想、日頃のお話など聞けて、また自分の意見も否定されることなく聞いていただけることで清々しい気分になりました。
ACP について具体的な関わりが無いと話されていた歯科医の先生や薬剤師さんの貴重なご意見を聞かせて頂き良かったです。
他の職種の方の話を聞く事ができた。医師が、看取りの時どのように家族や本人に対応しているか、その対応により家族も安心して最期を迎える事ができた、と聞いた。
同話題について普段話を聞くことができない職種の方からも話を聞く事ができたため、多面的な捉え方ができ大変有意義であった。
職種によっては看取りに直接関わっていないと話されていたが、グループワークの中で間接的に関わっていることがわかってきた。例えば、薬剤師　薬が変更になった場合、どう説明すべきか、どこまで本人は病状を理解しているのかグループ皆が連携の必要性を感じた。歯科医　最後の最後まで美味しく食べるために必要では　と。
多職種の方の意見が聞けて勉強になりました。
今回のグループワークは病院看護し、訪問看護師リハの方、介護タクシーの方々と他業種のお話が聞けて良かったと思います。
考え、言語化することが大切ですね。

研究会全般についての意見や感想、要望等

多職種、他職種と直接繋がれなくても知識を得る事で、自分の頭の中で考え方のチームを作る事ができると感じた。その上で他職種の方とカンファレンスをできる様になりたい。
いろいろな角度から意見をいただける。
今後も積極的に参加したいと感じました。
今回の研修で学んだ、ビリーブメントカンファレンスや、看取りの見える化シートを活用して、多職種で利用者の生活を支援していきたいと思います。
ACP は患者の人生を満足に閉じていただくために重要だと思います。だからこそ医療職は新しい知識を取り入れながら連携していけるように活動しなければいけないと再認識できました。
顔の見える関係、自事業所以外とのグループワークは新鮮でした。
皆さん、活発に意見を言われておられ、他職種の意見を生の声で聞く良い機会でした。連携を図る良い機会だったとおもいます。
これだけの多職種が参加する会はあまりないので今後も継続していただきたいです。
初めて研究会に参加させてもらい色んな職種の方々が ACP に興味を持たれていることを知り、自分ももっと深めたいと思いました。
とても良い雰囲気の研究会で有意義な時間が過ごせました。
今年度は ACP について 3 回全て参加させて頂き、対面での意見交換については意識を深め合っていると感じました。
普段関わりのない職種の方の話しが聞ける。
いろいろな職種で深い話が聞けた。
質の高い話が聞けました。
時間が遅い時間帯なのでもう少し早くから始まるといいなあと。とても良い集まりですがパワーが要ります。医師やその他の職種の方が集まれるのがこの時間帯なので仕方ないですよね。
一つのテーマに対し様々な捉え方、意見を聞く事ができ自分の考え方が拡がるため。
今後も参加をしていきたいです。
知らなかったことを　情報とか様々なことを学ぶことができる。
多職種で話すことが大切だと思いました。

たくさんのご意見、ご感想、ありがとうございました

☆次回は、令和7年1月16日(木)に開催します！
「認知症の方への支援～事例からの多職種連携～」
〔担当世話人団体〕
湖東健康福祉事務所/市町地域包括支援センター

ホームページ「在宅医療福祉情報の森」で次回研究会の情報や過去の開催内容をご覧いただけます。

在宅医療福祉情報の森 で検索。

【研究会に関するお問い合わせ】ことう地域チームケア研究会事務局
◆一社)彦根愛知犬上介護保険事業者協議会　TEL 49-2455　E-mail:info@gen-ai-ken-kaigo.jp）
◆彦根市高齢福祉推進課（くすのきセンター）　TEL 24-0828